



雪は少なめだったが、展望はすばらしかった！

---

## 五頭連峰縦走（松平山～菱ヶ岳）

---

浅井

【日時】 2008年12月28日～30日

【メンバー】 L小川、浅井

年末は足慣らしも兼ねて2泊程度の軽い雪山に行きたいと思っていた。小川君がやはり短めの日程で雪山募集をかけていたのでメールしたところ、それでは一緒に行きましょうということになった。場所については、私が五頭の縦走なんかはどうですかと提案したところ、意外にも彼は乗ってくれた。小川君は今時の若者には珍しく、中年好みの渋い低山にも興味があるようだ(笑)。

五頭はトマでは馴染みのある山だが、私はまだ一度も行ったことがない。1000mにも満たない低山だが、雪が積もればラッセルするくらいの雪山歩きは楽しめるだろう。ちょうど3年前の05年の年末に仁さん、耕至さん、高田さんと五頭の少し北に位置する楡形山脈を1泊2日で縦走したことがある。その年は雪が多く、500m程度の低山ながらも、しっかりとラッセルもあり、思いがけず雪山気分を満喫することができた。その経験から、次は五頭なんかも面白いかもしれないと思っていたのである。

しかし去年は12月下旬に入っても雪が少ないとのことで、このままではただの低山ハイクに終わってしまうのでは危ぶまれた。念のためサブプランも考えたが、幸いクリスマス以降になってやっと本格的な冬将軍が居座り、何とか降雪も期待できそうな状況になったので、予定通り行くことにした。

### 12月28日 曇り時々雪

前夜、新宿駅西口発の夜行バスに乗り、長岡駅前下車。本当は「ムーンライトえちご」で行きたかったのだが、あいにく帰省シーズンで既に満席だったので、小川君がネットで見つけてくれた夜行バスにした。夜行バスは新幹線などに比べると安いのでこの時期は大人気だ。新宿駅西口のバス発着所も大勢の利用客でごった返していた。

途中、越後川口SAで下りた時は雪が激しく降っていたが、長岡に着くと雨模様になっていた。長岡からJRに乗り、新津で羽越本線に乗り換えて、水原駅下車。強い冬型のため時折強風が吹いていたが、雨は止んでおり、時折青空も顔を出している。たっぷりの降雪を期待したのだが、残念ながら平野部には雪は全くない。一面の雪景色だった3年前とは大違いだ。田んぼの中に所々白い点々が見えたが、それは雪ではなく、シベリアからやって来た白鳥の群れであった。そう、ここは近くに白鳥の飛来地として有名な瓢湖(ひょうこ)がある所なのだ。私は子供の頃の一時期新潟に住んでいたことがあるので、「瓢湖」という言葉の響きは懐かしく思い出される。

さて水原駅からは予約しておいたタクシーに乗り、山葵山から松平山への登山口に向かう。運転手さんの話では、今年はやはり雪は少ないとのこと。平野部にはなくてもさすがに山麓まで来ると雪がうっすらと出てきた。しかしまだ雪山という気分ではない。人気のない少年自然の家の前でタクシーを降りて、9:00、出発。気温は低く、時折小雪も舞っている。この時期に松平山へと向かう物好きは我々しかないようでトレースはない。しばらく舗装された林道を歩き、魚止ノ滝のある沢を渡ると山道にさしかかる。このあたりまで来るとうっすらと雪が積もっているが、ラッセルする程ではない。しばらく沢沿いに進んだ後、山葵山への急登にさしかかる。急ぐ旅でもないので、のんびりペースで高度をかせいで行く。山葵山(693m)から松平山(953m)までは小さな起伏を交えたなだらかな登りとなる。山葵山を過ぎるとさすがに雪が深くなり、やっと雪山らしくなってきた。膝下くらいまでもぐりようになったので、小川君はワカン、私はスノーシューを履く。小雪が舞い時折強い風も吹いているが、概ね高曇りで見通しはよい。

13:50、立派な標識のある松平山山頂に着く。展望はまずまずで、五頭山へと続く五頭連峰の山々が間近に望まれた。こうして見ると低山ながらもなかなか立派な山並みだ。山頂から少し北東に進んだ辺りからは、二王子岳から飯豊方面へと続く大きな山並みも望まれた。もっとも飯豊連峰は中腹から上は厚い雲がかかっており、山頂までは見えなかった。棚橋さんたちの飯豊パーティの動向が気になるところだが、後で報告を聞くと、ちょうどこの頃彼らは体が飛ばされるくらいの強風と格闘していたようだ。



さて松平山からは大荒川の源頭をぐるりと回り込むように進むが、ここは地形がやや分かりにくく、途中尾根を一本間違えて引き返す場面もあった。翌日五頭山で会った地元の山岳会の人話では、地元の人でもこの辺りはガスで展望がないと迷いやすい所だという。源頭を回り込んで五頭山へと南下する尾根の辺りはヤブが濃かったので、大荒川側の斜面をトラバースするように進んでいく。一応山道らしくは見えただ、ここが正しい縦走路なのかどうかは結局分からなかった。トラバースを続けていると現在地を見失いがちになるが、ようやく尾根に上がり、小さな鞍部に出た所で泊まることにした(15:20)。ここは地形図の983mの少し手前辺りと思われる。夕方になり風が強くなってきたので、フライを飛ばされないようにきちんと張った。今回は三人まで泊まれるエスパースを持ってきたので、テントの中では快適に過ごすことができた。

## 12月29日 曇りのち晴れ

7:45、出発。昨夜まで時折吹いていた強風も収まり、穏やかな天気になった。どうやら冬型が一時的に緩んだようだ。今日は五頭山を越え、菱ヶ岳まで行く予定である。出発してしばらくすると反射板跡の広い尾根に出た。周囲の展望はよく、遠くには日本海まで望まれ、開放感に包まれる。ここから五頭山までは小さな起伏はあるが、概ねなだ

らかな登りが続く。トレースはないがたいしたラッセルもなく順調に進み、9:55、五頭山山頂(912m)に到着。山頂は狭いが展望はまずまずで、飯豊方面から会越の山々、そして下田川内の山並みまでよく見渡された。飯豊は昨日よりはよく見えたが、主脈の山頂付近にはまだガスがかかっていた。ちょうど南の方角に御神楽岳が優美な山容を見せて意外と近くに見えたのが印象的だった。

休憩の後、今度は菱ヶ岳目指して進む。途中、赤安山からの登山道を登ってきた一団と遭遇した。皆地元の人らしく、日帰りの軽装で、足回りは皆長靴である。過去の年報の記録(年報5号・97年3月)にも地元の人が軽装・長靴で来ていたと記されていたが、まさか厳冬期まで長靴で来るとは思わなかった。よく見ると彼らの長靴は皆同じ型のものであり、地が厚めで丈も長く頑丈そうに出来ている。おまけに上部に紐が通してあり、それを絞るとちょうどスパッツを着けたように雪が中に入るのを防ぐことができる。そしてさらにワカンも装着できるという。まさに雪国仕様の優れ物のようだ。彼らの一人に重装備の我々が東京から泊まりで来たことを話すと、「なんでこんな低山にわざわざ…」と怪訝な顔をした(笑)。そして我々が今日はこれから菱ヶ岳まで行くことを告げると、「菱ヶ岳まではすぐですよ。今日中に下山できますよ。今日下山すれば明日は二王子岳にも行けますよ」などと地元感覚で軽くおっしゃる。さらに話を伺うと、その人は下越山岳会に所属しており、トマの風のことも知っているという。少し親近感がわく。彼は一団とは別パーティで単独で来たようで、我々に刺激されたのか、「じゃあ、私もちょっと菱ヶ岳を回って帰るか」と言って軽々と先に行ってしまった。

こうして日帰りの軽装組に会ったことにより、今までの我々のペースが乱され、やや拍子抜けした感じになってしまった。菱ヶ岳からやって来た別の単独の人もいたので、ここから先はただトレースを辿るだけである。というわけでこの先は難なく進み、13:10、予定より早く菱ヶ岳山頂に到着。



菱ヶ岳は五頭連峰の最高峰(973m)で、山頂からの展望はピカ一である。広大な越後平野の先には大都市である新潟の街並み、その背後には遥か彼方まで続く海岸線、そして大河と呼ぶにふさわしい阿賀野川の一筋の流れ、さらには海に浮ぶ船までよく見えた。反対側に目を転じると、飯豊～会越～下田川内の重畳たる山並みがパノラマのように目に入ってくる。時間的には今日中に下山可能だが、このすばらしい頂でゆっくりしない手はない。というわけで今日はここで泊まることにして、山頂の片隅の灌木の傍にテントを張った。

大展望を飽きるくらい楽しみながらのんびりと過ごす。夕方までにさらに二人の単独登山者が山頂にやって来た。やはり二人とも地元の日帰りハイカーで、我々がこの山頂でのんびり泊まるのを羨ましそうに見ていた。彼らから見ると我々は意外と贅沢な山行をしているのかもしれない…。午後から夕方にかけては穏やかに晴れ上がり、刻々と色に移り変わる夕空がとりわけ美しかった。日が落ちると街の灯りがぼつぼつと点りはじ



め、壮大な夜景が待ち遠しい。小川君は夜景を撮るために、雪でブロックを積んでカメラ台を作っていた。

夕食を済ませてテントから顔を出すと、眼下には期待通りの壮大な夜景が広がっていた。山の上からこのような夜景の大パノラマを見るのは久しぶりだ。新潟の夜景を見るのも初めてなので新鮮だ。さすが日本海側屈指の大都市だけあって、〇〇ドルの夜景と形容したい！ 傍にきれいどころがいなかったのが残念(笑)…。

しかしこの穏やかな天気は一時的なもので、その夜は夜半から風が強まり、ガスが出てきて、ついにはみぞれ交じりの雨模様になってしまった。

### 12月30日 雨

予報では寒冷前線が通過し、天気はこの先悪くなる一方なので、早めに起きて、6:30 出発。今日はゴールの村杉温泉目指して下りるだけだ。まだ周囲は薄暗くガスもかかっていたが、下山路には昨日のトレースもあるので迷う心配はない。明け方まで降っていたみぞれ交じりの雨は今は小康状態。気温は意外と高めである。雨でくさった雪を踏みしめながらぐんぐん高度を下げていく。高度が下がると雪もみるみる少なくなってくる。1時間半程歩き下ると、地形図にはない新しい林道が左手に見えた。夏道が出てきた登山道をプラ靴で歩くのは良かったのか、小川君は「この林道を行ってみましょうか」と言って、林道に入っていった。地図にも載っていない道なので、やや不安はあったが、そのまま林道を下っていくと、やがて立派な舗装道路となり、分岐にぶつかった。とりあえず村杉温泉の方角に向かう道に入っていくと、その先はまだ工事中で、途中で行き止まりになってしまった。やむなく引き返して、右手の沢の方に下りていく舗装道路を下っていく。これは明らかに村杉温泉よりもかなり南の地点に出そうだ。いつの間にか本降りになった雨の中をそのまましょぼしょぼと歩いていくと、車の往来が多い国道に出た。車を避けながらその国道を北上していくと、やっと「歓迎！村杉温泉」の看板が出てきたのでほっとする。看板に従って右手の細い道に入っていくと、鄙びた風情のある温泉街が広がり、9:15、その奥にある共同浴場に到着して山行は終了した。

風呂で温まった後は、佐貫さんが教えてくれた近くの豆腐屋(川上とうふ)で時間をつぶしたが、ここは通の間では有名な店らしく、ひっきりなしに客が来て飛ぶように売っていた。試食してみると確かに絶品だったので、正月土産に実家にも送ったところ、とても喜ばれた。後はタクシーで水原駅まで出て、各駅列車を乗り継いでのんびり帰京した。

### 【行程】

- 12/28 少年自然の家(9:00)～松平山(13:50)～983mの手前の鞍部(15:20)
- 12/29 出発(7:45)～五頭山(9:55)～菱ヶ岳(13:10)
- 12/30 出発(6:30)～村杉温泉(9:15)

### 【地図】出湯